

【書評】

横幹〈知のシリーズ〉編集委員会 編

横幹〈知の統合〉シリーズ
カワイイ文化とテクノロジーの隠れた関係

東京電機大学出版局 128頁 2016年 定価1,800円+税 ISBN: 978-4-501-62960-1

本書は、横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）が企画した〈知の統合〉シリーズの一冊である。「文化とテクノロジー」の「隠れた」関係を論じており、しかも対象は「カワイイ」と大変挑戦的な書籍である。書名にあるように、本書では一貫して「カワイイ」を対象とし、歴史学、文化論、技術論、経済学と多面的に捉えている。

本章は全部で6章から構成されている。なお、章間の相互関係について「はじめに」にまとめられているので、各章をお読みいただく前にぜひ関係図をご覧ください。ただければ全体の構成が把握できると思う。以下で概要を紹介したい。

第1章では、「カワイイ」の歴史的な価値の変遷についてまとめられ、海外での受容のされ方についても紹介されている。“kawaii”はcuteやcool, beautifulといった同義語と思われる英単語とは微妙に異なる意味・意義をもっており、この感覚的な違いが今では広く世界で認識されているということである。第2章は「カワイイ」を工学的にどのようにアプローチするかについてまとめられている。特に、対象に対する生体の反応をできる限り客観的に取得しようと、五感が得るシグナルと評価との関係について論じられている。第3章では複製を前提とする日本のコンテンツを日常系と捉え、それが江戸時代以前までさかのぼれると主張している。「カワイイ」の本質は何であるかということに迫る大変積極的な議論である。第4章は、最近さまざまな地域で企画されているローカル・キャラクターについてまとめられている。これらのキャラクターの共通する特徴が「カワイイ」であり、マスコットとして活躍することで、地域活性につながることを期待されている。こうしたローカル・キャラクターの

経済活性化への影響について分析されている。第5章はアミューズメントセンターなどに設置されている業務用ゲーム機について、「カワイイ」を扱うインタラクティブ・メディアについて述べられている。こうした場所に女性が多く来店するようになった経緯や、今後の方向性について論じられている。第6章では、特に歌唱の録音・複製技術が「カワイイ」歌声をどのように生み出してきたかを、特に童謡を事例としながら考察している。

実際、われわれの周りでも「カワイイ」のような感性は心理学的な面だけでなく、経済・経営領域とも大きくかかわっている。写真投稿SNSのInstagramでは「#カワイイ」というハッシュタグがあり、ハッシュタグで検索すると30万件以上の投稿が確認できる。それらを見てみると日常生活での「カワイイ」ものばかりでなく、今購入したばかりのファッションアイテムや料理といったさまざまなものが発見できる。ちなみに「#かわいい」というハッシュタグもあり、こちらは500万件がヒットするが、投稿されている画像のテイストが「#カワイイ」と多少異なる感じがある。また、「#kawaii」というハッシュタグならば検索結果は1,900万件を超え、その多くが海外からの投稿と思われる。“kawaii”の市民権の大きさがよくわかる。今後はこうした感性情報をいかに経済活動もしくは企業活動に取り入れていくか、そのためにどういった分析や評価が必要となるか、こうした問題解決のためには、感性工学の範疇だけではなく、統計学やORといった、一見異分野の学問領域の出番なのかもしれない。新たな研究領域としてご興味をもたれた方はぜひご一読いただきたい。

(生田目 崇)